

# テレビュー福島

## 事業の名称

テレビが発信する情報への「考慮」と「判断」を学ぶ～考査とニュースの現場から～

## 事業概要

テレビを作る側が、送り出す情報にどんな考慮と判断を重ねているか。

福島県内の高校生を対象に、講義とワークショップを通じて、それらを学んでもらいながら、「様々な情報を見極める目」を養うことを目的に事業を実施した。

実施日：2024年7月30日

実施場所：テレビュー福島本社

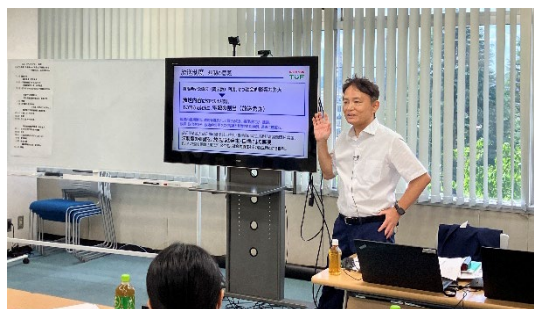
参加者：・ 福島県中通り／桜の聖母学院高等学校放送部所属生徒3名  
・ 福島県会津地方／福島県立葵高等学校放送委員会所属生徒3名  
・ 福島県浜通り／福島県立磐城桜が丘高等学校放送局所属生徒3名  
(各校の引率教諭も来訪)

内容：① 講演「テレビとは何か」  
② 講演「CMやテレビショッピング番組における考慮すべき表現とは」  
③ 講演「震災・原発事故 その時、福島のテレビ局は」  
④ 講演「注意すべき表現」  
⑤ 意見交換（ディスカッション）

## 事業の成果

### ① 講演「テレビとは何か」

仲尾社長からテレビメディアの存在意義や、ネットメディア・SNSとの法規制の違いなどを説明。社会的影響力を増したSNSの問題点なども解説した。また、情報を送り出すための体制なども説明した。



### <生徒の反応など>

- ・ 報道／制作／編成／営業／技術の各部局による分業・連携によって日々の放送が行われている点への関心が高かった。
- ・ 著作権侵害や不適切な行為のコンテンツで視聴回数を獲得しようとする投稿が相次いでいる動画配信サービスに対し、テレビ番組は、放送法やコンプライアンス（法令順守）を第一に制作されていると、認識を新たにしていた。

## ② 講演「CMやテレビショッピング番組における考慮すべき表現とは」

前半は、加藤編成部担当部長が表題の講演を行い、局の考査判断基準について説明した。後半は実際のCMやテレビショッピングの映像を見て、生徒が問題点を指摘する考査体験を行った。

### <生徒の反応など>

- ・ 守るべき法令、基準が多岐にわたり、そのうえでCMやショッピング番組が放送されていることを理解していた。
- ・ 考査体験によって、前半の講演内容を具体的に理解でき、強く関心を持った様子を伺えた。生徒から「テレビについて知らないことばかりだった」「どのようにしてテレビ番組が作られているかが分かり新しい知識を得ることができた」「これまでとは違った視点でテレビ放送を見ることができるようになった」との感想があった。



## ③ 講演「震災・原発事故 その時、福島のテレビ局は」

渡邊報道制作局報道部長が表題の講演を行った。東日本大地震の発生中から直後の局内の生々しい映像の上映した後、福島第一原子力発電所事故に関し、▽記者の安全を確保するため取材の自主規制を行った、▽官房長官の「直ちに健康に影響はない」という発言が波紋を広げた、▽「福島にいると子供を産めなくなる」などのデマが飛び交った、▽故郷を奪われ怒りを表す避難住民に取材拒否をされたり、トラブルが頻発した——ことなどを説明した。講演後、マスター室に移動して昼ニュースの見学を行った。

### <生徒の反応など>

- ・ 地震発生当時3～5歳だった生徒たちにとって記憶は大分薄れているようで、生々しい映像を見た生徒たちは、一様に大きな衝撃を受けていた。
- ・ 東日本大震災と原発事故が福島県に与えたインパクトの大きさを実感し、心に刻んでいる様子だった。

## ④ 講演「注意すべき表現」

前半は、アナウンサーでもある奥秋報道制作局専門局長が表題の講演を行った。相手に伝わりやすい表現、注意すべき表現、時代を経て変化する言葉など、具体例を挙げて説明した。

後半は、スタジオに移動し、実際に放送されたニュース映像と原稿を使用し生徒全員が映像に合わせて原稿を読むアナウンス体験をした。奥秋専門局長から視聴者に情報を伝えるために必要な点を伝えた。

### <生徒の反応など>

- ・ 各校での放送に関わる生徒たちであったため、質疑応答も活発に行われ、声の大きさ・トーン・強弱・テンポ・イントネーション・スピード・間の取り方・表情な

どの技術的なアドバイス。「原稿を読む際に、その内容を自分なりに咀嚼して理解すること。視聴者に伝えたいという思いを持つことが重要」との説明に、熱心に耳を傾けていた。

#### ⑤ 意見交換（ディスカッション）

意見を出し合うディスカッションを行い、交流を深めた。日々の校内放送の活動報告、当日の感想、ネットメディアとの関係性などが話題となった。



##### <当日の感想>

- ・ 今まで何気なく見ていたテレビの裏側を知ることができた。テレビ番組には多くの人が関わり、多くの努力をしていることを知り、テレビに対する見方が変わった。
- ・ テレビ番組が私たちに届くまでには、多くのチェック機能が働いていることを知り、「ありがたい」と思った。
- ・ テレビで使うべきでない表現を知ることができた。特に、考査というコンプライアンスに基づいた作業があることを知り、とても勉強になった。
- ・ アナウンスについてアドバイスをいただき、とても参考になった。今後の活動に活かしたい。

##### <ネットメディアとの関係性>

###### (肯定的な意見)

- ・ YouTube で情報を得ることが多いが、テレビのニュースもよく見ている。情報の信頼度から言えば、テレビの方が高いと感じている。
- ・ 一番信頼しているメディアはテレビ。それは今後も変わらないと思う。だからテレビには、正しい情報を報じてほしい。

###### (否定的な意見)

- ・ 情報のソースは TikTok で十分。テレビで報じられるのは放送局の意見が大半だが、TikTok では一般の方の意見に接することができる。社会やみんなの意見を知るためには、TikTok のほうが有益だと思う。
- ・ テレビで報じられていることの真偽を視聴者は確かめられず、不安に思う。

以上でプログラムは全て終了した。

なお、今回のプログラムをすべて収録するとともに、生徒たちを取材。それら映像をもとに、当日の昼ニュース『ワンステップ』、報道番組『ステップ』内で放送した。

さらに、後日編集をし、当社のYouTubeチャンネルに動画をアップし、当企画を広く発信した。(URL : <https://www.youtube.com/watch?v=4SvoiKgxBhs>)

**【終了後の社としての感想】**

生徒たちには新たな気づきがたくさんあったようだ。元々、放送やメディアに関心を持っている生徒たちではあったが、かなり刺激になったように感じられた。

本講座を通じて、気づいたこと、知ったこと、学んだことを今後の校内放送等の活動に活かすとともに、今後さまざまなメディアに接し情報を得る際の参考にしてほしいと思う。メディアリテラシーの観点からも、十二分な手応えを感じた。

以 上